

山口市男女共同参画センター

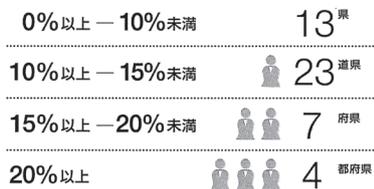
だより

令和4年3月号

発行:山口市男女共同参画センター
 編集:山口市男女共同参画ネットワーク広報委員会
 〒753-0074 山口市中央二丁目5番1号(山口市民会館事務所2階)
 TEL/FAX 083-934-2841 <http://www.y-djc.com/> [✉mw3kaku@c-able.ne.jp](mailto:mw3kaku@c-able.ne.jp)

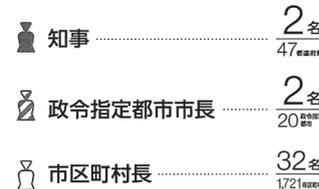
女性の政治参画マップ 2021

市区町村議会における女性議員の比率



(注) 総務省「地方公共団体の議会の議員及び長の所属党派別人員調」より作成 (2020年12月31日現在)

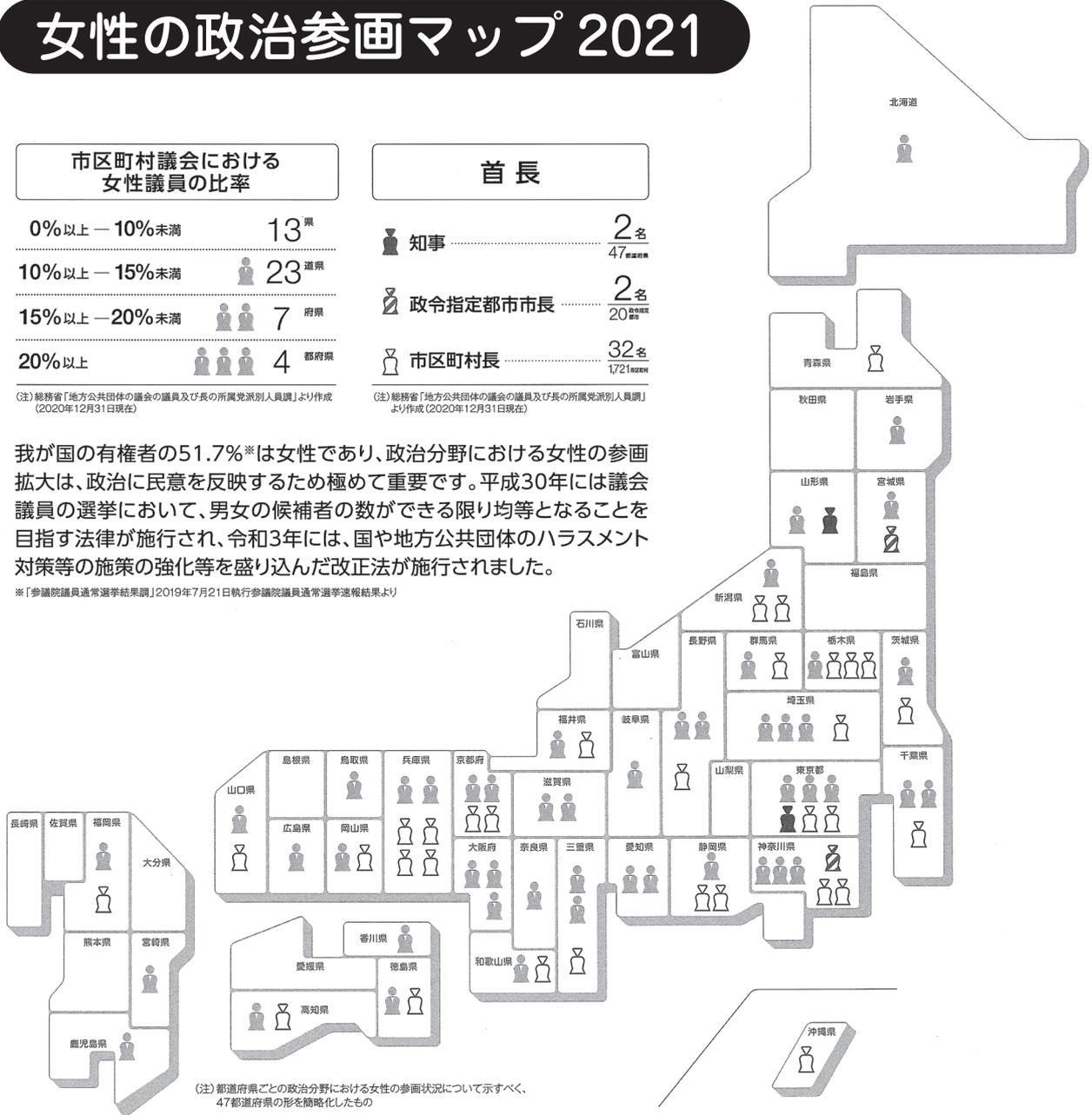
首長



(注) 総務省「地方公共団体の議会の議員及び長の所属党派別人員調」より作成 (2020年12月31日現在)

我が国の有権者の51.7%※は女性であり、政治分野における女性の参画拡大は、政治に民意を反映するため極めて重要です。平成30年には議会議員の選挙において、男女の候補者の数ができる限り均等となることを目指す法律が施行され、令和3年には、国や地方公共団体のハラスメント対策等の施策の強化等を盛り込んだ改正法が施行されました。

※「参議院議員通常選挙結果調」2019年7月21日執行参議院議員通常選挙速報結果より



(注) 都道府県ごとの政治分野における女性の参画状況について示すべく、47都道府県の形を簡略化したもの

国会議員の女性比率

衆議院の女性議員比率 9.9%
 参議院の女性議員比率 23.0%
 (注) 衆議院議員は2021年7月28日現在、参議院議員は2021年8月4日現在 (衆議院・参議院HPより)

世界的女性議員比率

()内は調査対象190か国中の順位

スウェーデン	47.0% (7位)	フランス	39.5% (27位)
イギリス	34.0% (40位)	ドイツ	31.5% (49位)
アメリカ	27.4% (65位)	日本	9.9% (164位)

(注) IPU (列国議会同盟: Inter-Parliamentary Union) Open Data Platformより
 下院又は一院制議会 (日本は衆議院) の数値 (2021年6月現在) 2021年6月5日閲覧

市区町村別の詳細は「市区町村女性参画状況見える化マップ」で検索!



女性の力が政治を変える!! (全3回)

第1回「なぜ少ない? 女性議員」

10月16日(土) ※当初予定の9/4から延期

講師: 福岡・女性議員を増やす会

代表 富永桂子氏

米国CNNはコロナ感染拡大阻止に成果を上げたドイツ、台湾、ニュージーランド等の女性リーダー10人を取り上げ、「世界で7%しかいない女性の指導者がパンデミック対応で成功しているのは注目に値する」と報道しました。いま女性の政治参画がなぜ必要なのかといえば、政治的な優先事項をジェンダーの視点から定義しなおすためであるといえます。例えばDV防止法(2001年)は超党派女性議員の尽力によって成立し、以後DVは私的問題ではなく人権侵害と捉えられるようになりました。福岡市議会への調査でも、女性議員が増えると議会が活性化し、政治が変わるとの回答が集まりました。

とはいうものの、日本の女性議員割合は衆議院9.9%で、世界で166位/191。年々ランクは低下しており、日本の努力不足は否めません。女性議員比率を高めた諸外国では120の国と地域がクオータ制を導入しており、フランスではパリテ法が効果を上げています。

日本でも2018年に日本版パリテ法ともいわれる候補者男女均等法が制定されました。この法律を真に実効性のあるものにするには、候補者数を均等(同数)にすること、立候補の障壁をなくすこと、議員活動と家庭の両立といった環境の整備、人材育成が必要です。昨年の同法初の改正ではハラスメント防止が盛り込まれました。また公職選挙法にジェンダークオータ制を導入することで、日本でも世界平均に近い3割の女性議員の誕生が期待できます。

第2回「何か違う? 台湾女性の政治参画」

10月2日(土)

講師: 西南学院大学講師 王貞月氏

台湾の地理と歴史についての基礎知識に続き、台湾女性の政治参画についてお話しいただきました。複雑な背景のもと1911年に台湾が建国を成し遂げた陰には女性革命家の存在があったそうです。1949~1987年の戒厳令下では、政党づくりはタブーで台湾の市民が政治を語れない時代でした。女性の参政権は1946年に憲法で保障されましたが、さらなる実効性を期して議席割当制が定められ、1999年地方選挙、2005年国政選挙で割合が25%へと強化されました。この候補者クオータ制

のお蔭で台湾では国会で約4割、地方議会でおおよそ3割以上の議席を女性が占めています。

日台地方選挙時の比較調査によると、両国には共通点も多く社会通念も相通じるものがありますが、女性の政治参画における決定的な違いは、台湾には憲法の定めによる罰則があることです(日本は努力義務)。また、台湾の女性候補者の支持者は若年層なのに対し日本はリタイア層で、その層が女性議員の増加を願う一方で法的なバックアップを望まないのはクオータ制への無理解があると考えられます。

クオータ制は決して逆差別ではなく、何もしないことがまさに女性差別なのです。クオータ制の導入は性別役割分業を解消し、ジェンダー平等の社会を実現するのに有効です。クオータ制によって政治参画が進めば、経済格差の解消にも大きな効果が期待できます。政治に参画する人材を育成するにあたっては、議員有給アシスタント制度のように立候補と仕事の両立を可能にするしくみを設けたり、町内会長育成講座などの実施によって日々の暮らしが政治に直結していることを学ぶことが重要です。

第3回「ロールモデルに聞く ~トップリーダーのこぼれ話~」

11月6日(土)

講師: 前宇部市長 久保田后子氏

日本でなぜ女性の政治参画が進まないのかという点、第一に男女ともに政治・行政は「自分ごと」ではなく「他人ごと」であること、第二に性別役割意識が根強いこと、第三に立法が遅れていること、第四に社会学やジェンダー学などの研究者の育成が進まず教育が停滞していることが理由に挙げられます。

まず、政治を「自分ごと」にするためには、政治と暮らしの関係を知ることです。暮らしの課題は何で、その解決に首長・議会は熱心に取り組んでいるか、税金の使われ方は適切かといったことに関心を持ちつつ、自分の努力ではできないことを自分ごととして受け止め議会や行政に働きかけるのです。次に、暮らしやすい街にするアクションとして公約をチェックして投票した政治家の活動に関心を持つこと、行政サービスやまちづくりの実態を把握すること、「どうせ変わらない」ではなく「良くなる」ために行動することです。

県内初の女性市長としての原点は「暮らしやすい街づくりのための行動」でした。私の経験談をひとつのロールモデルの話としていただけたらと思います。

男性が介護するということ（全3回）

第1回「男性介護者の今 男女共同参画時代を豊かに生きる」

12月11日（土）

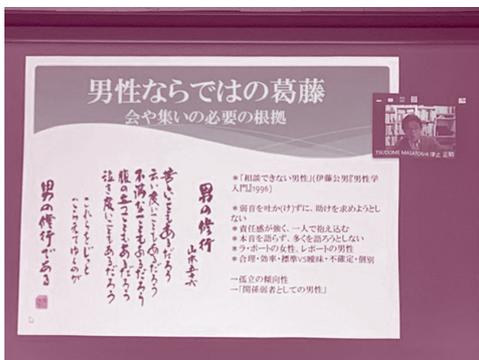
講師：立命館大学産業社会学部教授 津止正敏氏
はじめに武士にも看病や介護休暇「看病断（かんびょうことわり）」がありました。江戸時代の男性には「家族のケア責任」があり、介護も子育てにおいても男性が責任も実務も担っていた時代でもありました。ケアの性別役割分担が始まったのは明治期の「富国強兵」と「良妻賢母」からです。

さて、現在65歳以上の高齢者は3617万人で総人口に占める割合は28.7%となりました。2019年の国民生活基礎調査によると、介護する人/される人が共に後期高齢者という老老介護が世帯の1/3を占め在宅介護の主流になっています。

新しい介護実態の出現では、「想定外の介護者」例えば、男性・老老・認認・老障・障障・シングル・ヤング（孫、姪甥）・別居・通い等にもみる担い手の多様化があります。また、主たる介護者に占める男性の割合は増加し4人に1人で100万人超となっています。2019年時点で、介護者の続柄で見ても息子介護が子の配偶者（9.8%）を抜いて14.9%にまで増加しています。介護保険が始まって20年余り、在宅介護はより複雑化し、男性介護者の課題、仕事との両立支援はそのシンボリックな事態となっています。

最近介護を巡る新しい動きがあり、家族介護者支援から「ケアラー支援」へと全国で支援条例や支援窓口が創設されました。政府も「ヤングケアラー支援」に着手しています。

また、全国には男性介護者の会があり、介護を「オープン」に「SOS」発信ができる、介護・介護者が「肯定」される、介護者が孤立しない「場」づくりに取り組んでいます。



第2回「介護の実技ワンポイント」

1月15日（土）

会場：白石地域交流センター

講師：山口県介護福祉士会

介護保険の申請から利用までの流れと、介護保険サービスでできることの説明を受けた後に、介護に

おいて介護する人もされる人も気持ちのいい介助の実技を学びました。ベッドから起きあがる・立ち上がる、車いすでの移動など私たちがつつい力で押し切ろうとしていることがワンポイント教えていただくことで楽々出来、介護される人にも心地よい動作になることを教えていただきました。「100%の介護をしなくても良い」「介護される人の息抜きも必要」とのアドバイスも目からうろこでした。



第3回「フリートーク “介護のあれこれ” & コーヒーブレイク」

1月29日（土）

会場：白石地域交流センター

アドバイザー：山口市高齢福祉課主幹

市瀬欽子氏

コーヒー提供：Nishida Coffee

最初にコーヒーの淹れ方のワンポイント指導の後、プロによるコーヒーを味わってから、アドバイザー兼ファシリテーターとして市瀬氏に進めていただきました。事例や介護を続けていくためのヒントをお聞きし、参加者の各々が自己紹介とともに介護について自由に話すなかで、アドバイザーが丁寧にその言葉をくみ取って感想や助言を与えて下さいました。



アフガニスタンは今（全2回）

第1回「ブレッドウィナー」上映会

2月6日（日） 会場：山口市民会館小ホール

昨年政変が起こったアフガニスタンの情勢について世界中が注目しています。とりわけ女性の権利が奪われているという報道に憂慮をおぼえるなかで、正しい知識を得ることから国際理解につなげたいと願い、全2回の講座を実施しました。

第1回は、今から約20年前のタリバン政権時代に生きる10才の少女パヴァーナの物語をアニメーションで描いた映画「ブレッドウィナー」の上映会を親子対象（小学生以上）で行いました。当時のアフガニスタンでは、女性は親族の男性同伴でなければ外出禁止とされ、父をタリバンに不当に連行されたパヴァーナは、髪を切り男の子を装って家族のために働き、暮らしを支え、父を助けようと奔走します。日本ではあまり知ることのできないタリバン支配下のアフガニスタンの町の様子や人々の暮らしがうかがえ、大人も子どもも映画の世界に引き込まれて観ているのがよくわかりました。

参加者からは「スケールの大きな映画でとても感動した」「子どもが何か感じてくれたらと思って参加した。世界には、日本みたいな国だけではないことをわかってもらえたらいいと思う。また、そういう国のために自分たちには何をしたらいいかができるかが知りたい」「ぼくは日本に住んでるけど、アフガニスタンや『このお話の場所に住んでいたら』と思ってこわかったです。」「戦争をしてはいけないとあらためて思いました。悲しいお話だったけどとても面しろかったし、勉強になりました」などの感想をいただきました。

第2回「アフガニスタンを知る」

2月26日（土）

講師：立命館大学国際関係学部教授 嶋田晴行氏

第2回はアフガニスタンの政治的、地理的、文化的な背景を知るため、JICAで現地に派遣された経験をお持ちの専門家にお話を伺いました。

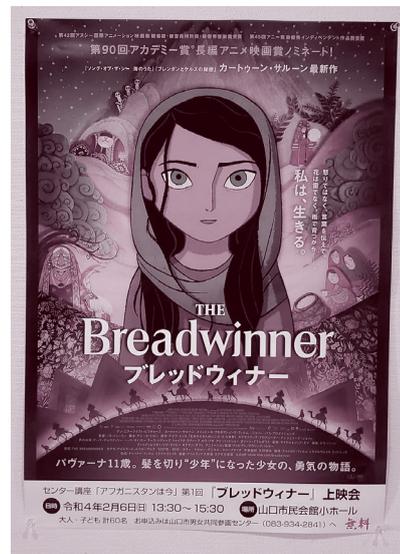
古くは大英帝国、ソ連、アメリカによって侵攻されてきた国がアフガニスタンで、首都はカブール。面積は、45万km²で日本の1.7倍。人口およそ4000万人。パキスタン、イラン、中国と国境を接し、天然資源の多い国です。日本も、アフガニスタンの空港建設やテレビ塔などのいろいろな支援をしてきており、個人では福岡出身の中村哲さんが有名です。

映画「ブレッドウィナー」に描かれている時代のタリバン支配下では、厳格な支配や女性への厳しい対応の反面、両論になりますが、治安はよかったと振り返る人もいたようでした。

アメリカ軍の撤退後、昨年8月15日に再びタリバンが政権を掌握し、迫害の恐怖から人々が空港に殺到したことは皆さんも報道等でご存じのとおりです。

タリバンによるイスラム教の解釈では、男と女は別の存在で女性は弱く守られるものであり、違う扱いをしてこそ平等になると考えられているそうです。今政権は国際援助を受ける為に女性差別をしないとの声明をアピールしているものの、教育や就労などで女性に対しての制約は厳しくなっている現実があります。

アフガニスタンに忘れず関心を向け続けることが大切です。



おんなの目 おとこの目

悲しいことだが、最近CNNの同時通訳とか見ていると「ボランティア」という言葉が「志願兵」という意味で使われることが多くなった。確かに、間違いではないのだが、我々が普段

使っている「ボランティア」の意味とは若干違う。

「社会課題を解決するために自発的に活動する人」とでも訳せばいいのかなとも思うが、語彙の多い日本語にしては、ぴったりあてはまる言葉があってもいいように思う。人によっては「無償の労働者」と勘違いしている人もいたりする。

「ボランティア」という言葉が一般的に使われるようになったのは、阪神・淡路大震災のあった1995年と言われている。それから20年あまり、ボランティア活動のすそ野は広がってきたように思うが、「志願兵」という言葉を聞いてしまうと、まだまだやらなくてはならないことがあるなと思った。